

【第10版】
2023年度版

環境活動レポート

株式会社 岩永工営

《 目 次 》	1
1. 事業概要	2
1) 事業者名及び代表者	2
2) 所在地	2
3) 環境管理責任者	2
4) 連絡先	2
5) 事業内容	2
6) 事業規模	2
7) 対象範囲	2
8) 推進組織図	2
2. 環境方針	3
3. 環境目標	4
4. 環境目標の実績	4
5. 環境活動計画と取組結果及びその評価	5
6. 次年度の環境目標と環境活動計画	6
7. 環境関連法規等の遵守状況確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟の有無	7
8. 代表者による全体評価と見直し結果	7

1. 事業概要

1) 事業者名及び代表者名

株式会社 岩永工営
代表取締役 岩永 徹平

2) 所在地

本 社・・・〒880-0912 宮崎県宮崎市大字赤江215番地1
資材置場・・・〒880-0912 宮崎県宮崎市大字赤江215番地1

3) 環境管理責任者

EA-21責任者 : 岩永 和英

4) 連絡先

連絡担当者 : 岩永 和英 (EA21責任者)
TEL : 0985-56-6826
FAX : 0985-56-2166
E-mail: iwanagakouei.s51@miyazaki-catv.ne.jp

5) 事業内容

・建設業
(土木一式工事、とび・土工工事、建築工事、管工事、造園工事、解体工事)

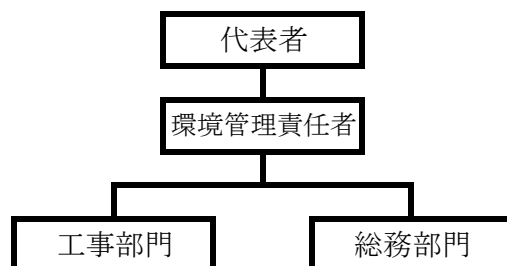
6) 事業規模

項目	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
従業員数	8	8	8	8	8	6	6	6	6
工事等の件数	32	30	32	30	23	19	20	23	23
事業所床面積(㎡)	230	230	230	230	230	230	230	230	230
資機材置場面積(㎡)	400	400	400	400	400	400	400	400	400

7) 対象範囲(全組織・全活動)

- ・対象組織 全社(関連事業所なし)
- ・対象活動 建設業 (土木一式工事、とび・土工工事、管工事)
- ・対象期間 2023年10月～2024年9月
- ・環境活動レポート(2023年度版 第10版)作成日・・・2025年3月18日

8) 推進組織図



2. 環境方針

環境方針

私たちは、建設工事が与える環境負荷を把握し、省資源及びストップ温暖化の社員総ぐるみ運動を展開し、資源循環型社会形成に尽力して、持続可能な社会づくりに貢献します。

- 1. 環境経営に積極的に取り組む為、環境経営システムを構築して、継続的な改善に努めます。**
- 2. 我社は過去の建設事業が与えた環境負荷を把握した結果、以下の事項を重点事項として優先的に負荷の削減に取り組めます。**
 - ①電気使用量・化石燃料使用量の節減による二酸化炭素排出量の削減**
 - ②建設現場や事業所から排出される廃棄物の削減及びリサイクル推進**
 - ③節水活動による水使用量の削減**
- 2. 関連する環境の法規制を遵守するとともに、行政機関・団体・地域等の要請に協力します**
- 3. 新技術活用や創意工夫で効率的な施工に努めます。**
- 4. 環境に配慮した資材利用・工法を推進し、現場周辺の自然環境保全に努めます**

環境方針は当社全従業員に周知徹底し、関連の協力会社さまへも協力を依頼するとともに、一般に公表します。

制定;平成27年 9月15日
改定;令和 2年10月 1日
改定;令和 3年10月 1日
株式会社 岩永工営
代表取締役 岩永 徹平

3. 環境目標

過去1年間の環境負荷及び環境への取組みの自己チェックから、中期(3ヶ年)の目標値を設定しました。

取組み項目 (目標項目)(単位)		実施区	年 度 別 環 境 目 標			
			基準値 (2017年10月～ 2020年9月)	2021年度 (2021年10月～ 2022年9月)	2022年度 (2022年10月～ 2023年9月)	2023年度 (2023年10月～ 2024年9月)
1. 二酸化炭素排出量の削減(kg-CO ₂)		全社	36,537	36,180	35,997	35,815
省 エ ネ ル ギ ー 項 目	①電力使用量の削減 (kWh)	事務所	4,337	4,315	4,293	4,272
	②ガソリン使用量の削減 (L)	全社	10,268	10,165	10,114	10,063
	③軽油使用量の削減 (L)	現場	4,305	4,262	4,240	4,219
	④重油使用量の削減 (L)	現場	4,305	4,262	4,240	4,219
2 の 廃 棄 物 の 削減	①. 一般廃棄物の削減 (kg)	全社	40.4	40.2	40.0	39.8
	②. 建設副産物の再資源化率向上 (95%以上)	現場	100% (372.99 t)	再資源化率95%以上		
3. 水資源使用量の削減 (m3)		全社	52.8	52.5	52.3	52.0
4. 環境型製品・サービスの提供		全社	環境活動計画の遵守を目標としています			

* ガソリンは事務所用と現場用に分けられないため、全社として集計しています。

* 建設副産物の再資源化率は再資源化量÷総排出量×100

* 環境型製品・サービスの提供は、環境活動を遵守する事を目標としています

4.環境目標の実績

* 2023年10月から2024年9月までの1年間の実績は以下の通りです。

取組み項目	実施区	目標値	実績	達成率	評価
二酸化炭素排出量(kg-CO ₂)	全社	35,815	53,818	66.5%	×
①電力使用量の削減 (kWh)	事務所	4,272	3,554	120.2%	○
②ガソリン使用量の削減 (L)	全社	10,063	4,892	205.7%	○
③軽油使用量の削減 (L)	現場	4,219	15,950	26.5%	×
④重油使用量の削減 (L)	現場	4,219	15,950	26.5%	×
2 の 廃 棄 物 の 削減	全社	39.8	37.5	106.2%	○
②建設副産物の 再資源化率向上 (%)	現場	95%以上	33.5% (272.11t/813.01t)	35.3%	×
3. 水資源使用量の削減 (m3)	全社	52.0	48.0	108.4%	○
4. 環境型製品・サービスの提供	全社	環境活動計画 の遵守	活動計画を遵守 しています。	—	○

* 購入電力の二酸化炭素排出係数は、九州電力の調整後排出係数 0.371 を使用しています。

* 事務所で使用する灯油や現場の電気使用量を含めた二酸化炭素総排出量は、56,876.8 kg-CO₂です。

【評価】 達成率90%以上は○、80%以上は△、80%未満は×

5.環境活動計画と取組結果、及びその評価

取組項目	活動内容	取組状況	評価
・電気使用量の削減	①不在・不要箇所及び昼休み時は消灯する	酷暑の夏場にエアコンの使用が多くなって電気使用量が増加したが、不在時のこまめな消灯の徹底などで、年間目標を達成できた。尚、クールビズ・ウォームビズも徹底できている。	○
	②パソコン、コピー機等のOA機器は省電力設定に設定する		○
	③空調の適温化〔冷房28℃程度、暖房22度程度〕を徹底する		△
	④社内ではクールビズ・ウォームビズを推進する		○
・ガソリン使用量の削減	①エコドライブ(アイドリングストップ、急発進・急加速及び空ぶかしの防止等)を徹底する	現場への相乗り、エコドライブ、アイドリングストップ等を徹底して実施した。また、今年度は基準年に比べて近場の現場が多かった事や、ガソリンを燃料とする機械使用が少なかった事もあって大幅な目標達成となった。今後も、省エネ活動を徹底して実施する。	○
	②現場への相乗りを推進する		○
	③段取り良い前準備で忘れ物などをなくし、折り返し運行の撲滅を図る。		○
・軽油使用量の削減	①重機や建設機械等はできるだけフルパワー操作をしないようにする(アクセル7割運動等)	空港緩衝緑地更地化や、ため池整備工事などで大型重機と大型ダンプカーの稼働が多かった為、軽油消費量が大きく増加した事と、基準年の消費量が少なかったこともあって年間の目標達成率が26.5%の未達成となった。軽油使用量は工事の内容で大きく変わるが、フルアクセルの抑制運動などを継続して節減を図る。	○
	②重機類は始業前点検を実施する		○
	③創意工夫で工期短縮を図る		○
・一般廃棄物の削減	①資源物を再生利用できるように分別する	廃棄物削減の為に出来るだけ文書類はアウトプットせずに画面で確認したり、不要になった書類の裏面利用等でコピー用紙等の節減を図った。又、徹底した分別で最終処分量は106.2%の目標達成となった。	○
	②コピーは裏紙使用や両面コピー、縮小コピー、集約コピー努める		○
・建設副産物の再資源化率の向上	①建設残余材が発生したら、資材倉庫に持帰り分別して保管する(再利用の推進)	建設副産物は残余材を持ち帰って分別して再利用、廃棄する場合もできるだけリサイクル業者へ処理依頼をするなど、建設副産物の削減を推進しているが、今年度は空港緩衝緑地更地化工事で最終処分となる汚泥が大量に発生した為、再資源化率は33.5%となった。	○
	②現場で発生する混合廃棄物はできるだけ分別してリユース、リサイクルする		○
	③廃棄物の処理はできるだけリサイクル業者へ依頼する		○
・水資源使用量の削減	①水道配管からの漏水を定期的に点検する	毎月1回は全蛇口を閉めて、給水メーターを見て漏水の有無を確認するなどして節水に努めて、108.4%の目標達成となった。	○
	②車両や建設機械の洗車は必要最小限にとどめて、できるだけ雨水を利用する		○
・環境配慮型工法の提案	①環境配慮型の建設機械を使用する(排ガス対策型、低騒音型、低振動型、エコ操作型等)	常に低騒音型排ガス規制の重機を使用している。 設計仕様書で指定された資材購入の際には、余剰資材が出ないよう、こまめな発注を心掛けている。 現場では常に工期短縮を意識して施工している。	○
	②可能な限り、環境配慮型材料等を利用した施工を実施する		○
	③工期短縮の創意工夫を実施する。		○

6.次年度の環境目標と環境活動計画

取組項目 環境目標(2024年度)	活動内容
二酸化炭素 排出量削減 39,322 kg-CO ₂	省エネ活動の推進
・電気使用量の削減 3,410 kWh	①不在・不要箇所及び昼休み時は消灯する ②パソコン、コピー機等のOA機器は省電力設定に設定する ③空調の適温化〔冷房・28℃程度、暖房・22度程度〕を徹底する ④社内ではクールビズ・ウォームビズを推進する
・ガソリン使用量の削減 6,592 L	①エコドライブ(アイドリングストップ、急発進・急加速及び空ぶかしの防止等)を徹底する ②現場への相乗りを推進する ③段取り良い前準備で忘れ物などをなくし、折返し運行の撲滅を図る。
・軽油使用量の削減 8,535 L	①重機や建設機械等はできるだけフルパワー操作をしないようにする(アクセル7割運動等) ②重機類は始業前点検を実施する
・一般廃棄物の削減 35.8 kg	①資源物を再生利用できるように分別する ②コピーは裏紙使用や両面コピー、縮小コピー、集約コピーに努める
・建設副産物再資源化率の向上 95%以上	①建設残余材が発生したら、資材倉庫に持ち帰り分別して保管する(再利用の推進) ②現場で発生する混合廃棄物は、できるだけ分別してリユース、リサイクルする ③廃棄物の処理はできるだけリサイクル業者へ依頼する
・水資源使用量の削減 60.0 m ³	①水道配管からの漏水を定期的に点検する ②車両や建設機械の洗車は必要最小限にとどめ、できるだけ雨水を利用する
・環境配慮型工法の提案 環境活動計画の遵守	①環境配慮型の建設機械を使用する(排ガス対策型、低騒音型、低振動型等) ②可能な限り、環境配慮型材料等を利用した施工を実施する ③工期短縮の創意工夫を実施する。

昨年度の活動計画を継続して取組みますが、事業の変化や社会情勢の変化などがあった場合は、状況に応じて見直す事になっています。又、現状より効果的な取り組みがある場合も適時見直す事になっています。

尚、2021年10月から2024年9月までの実績平均値を新たな基準値として、2024年10月から2027年9月までの第四次3ヶ年目標値を設定しています。

7.環境関連法規等の遵守状況確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟等の有無

当社の事業に係る環境関連法規は、担当者が定期的にインターネット等で改正の有無等を確認しています。

尚、関連法規制の遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。

また、関係当局からの指摘、及び地域住民からの訴訟もありませんでした。

現場での遵守状況は、安全パトロールや安全会議時などで確認しています

当社の事業に関する環境関連法規と遵守状況は以下の通りです、

法規名	遵守事項	遵守評価
廃棄物処理法	委託契約の締結、マニフェストの交付	遵守
	回収・照合確認(発行後B2,D票90日E票180日以内) A表の5年間保管	遵守
	産業廃棄物管理票交付等状況報告(6月30日までに知事へ報告)	遵守
	保管場所の掲示板設置	遵守
建設リサイクル法	発注者への書面による計画等説明、完了報告	遵守
	工事着手する日の7日前までに必要事項を都道府県知事に届け出る	遵守
	分別解体、再資源化促進、再資源使用	遵守
フロン排出抑制法	・定格出力7.5kW未満の業務用エアコン等の簡易点検実施 (重機搭載のエアコンを含む)	遵守
騒音規制法	・知事へ7日前までに届け出 ・作業敷地境界にて85デシベル以下	該当工事 なし
振動規制法	・知事へ7日前までに届け出 ・作業敷地境界にて75デシベル以下	該当工事 なし

8.代表者による全体評価と見直し結果

見直し事項	今回(2023年度)の評価結果と 代表者による指示内容
①推進組織について	現体制を継続する
②環境方針について	環境方針は継続する
③環境目標及び環境活動 計画について	今年度は空港緩衝緑地更地化や、ため池整備工事などで大型重機と大型タンパ カーの稼働が多かった為、軽油消費量が大きく増加した事で、軽油消費量が増加 して全社の二酸化炭素排出量が66.5%の目標未達成となりました。又、空港緑 地の更地化で発生した汚泥が全て埋立処分となった為に、再資源化率も大幅な 未達成となりましたが、それ以外は全て目標を達成できたことは評価出来ます。 今後も現場の内容によって燃料消費量などは大きく変わりますが、今後も 数値実績に一喜一憂せずに、自分たちで決めて省エネ・省資源活動を継続して 下さい。
④環境関連法規等の取纏 め及び遵守状況について	常に最新の法規制情報を把握し、コンプライアンスの徹底に努める事。
⑤取組状況の確認及び 問題点の是正について	軽油消費量は現場の内容で変わり為、数値目標の達成が難しい事もあるが、活 動の徹底は日常的に行って下さい。
⑥環境コミュニケーションに ついて	発注者や現場周辺の住民とのコミュニケーションを大切にして工事を進めて下さ い。
⑦マネジメントシステム 全般について	当社の事業活動に合った環境マネジメントシステムに仕上げていきましょう。